

学力向上のための重点プラン【中学校】

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に見通しをもたせ、振り返りをさせる授業展開の推進を図る。</li> <li>生徒が主体的・対話的に学び、その学びを深める授業スタイルへの転換を図る。</li> <li>教員及び生徒の双方がICT機器を効果的に活用する授業の実現を図る。</li> </ul>	中間評価		最終評価	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な協働活動を通して、自分を磨き、仲間とともに伸びる善意の集団を育成する。</li> <li>教室をはじめとする校内環境を整えるとともに、教職員によるきめ細かい見取りを行い、生徒の健全育成を推進する。</li> </ul>				

■ 教科の取組み内容

教科	令和元年度の定着度調査や6月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての生徒の課題	改善のための取組	追加する取組等（12月）	年度末の取組評価（2月）
国語	<p>調 2学年・3学年ともに全国の平均正答率を上回っており、新宿区学力定着度調査の結果は良好であった。しかし、問題の内容別正答率では、2学年・3学年それぞれ一部、全国平均を下回っているものがある。</p> <p>調 2学年は、領域別に見ると全ての項目で目標値を上回っており、特に「読むこと」においては目標値を9.3ポイント上回っている。ただし、問題の内容別正答率をみると「漢字を書く」問題のみ目標値を1.1ポイント下回っており、既習漢字の定着が課題となった。</p> <p>調 3学年は領域別に見ると「書くこと」の項目で目標値を3.1ポイント下回っている。また問題の内容別正答率では唯一「作文」の領域のみ目標値を下回っている。(3.1ポイント)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み書きの定着や作文の学習において、生徒によって定着度に差がある。</li> <li>2学年は授業に対する意欲が見える生徒が多いが、基礎的な学習への熱心さは改善の余地がある。</li> <li>3年生は自己の考えや主張を持っている生徒は多いが、それを表出することに課題がある生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週一回程度の書き取り練習課題や小テストを課したり、作文の誤字チェックを行ったりするなど工夫する。また、文章を書く学習を増やし、習得した漢字や語句を自分の言葉として扱う機会を増やしていく。</li> <li>思考を自分の中で組み立て、文章化したり、発表したりする学習を積み重ねることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文学的文章や論説的文章読む中で、グループでの話し合い活動と自分の中で思考を組み立てていく場面をそれぞれ設けるなどの学習を積み重ねていく。</li> </ul>	
社会	<p>調 2学年では、全国平均正答率を0.8ポイント下回っている。3学年では、全国平均正答率を1.9ポイント下回っている。</p> <p>調 2学年は、「知識・理解」の観点で全国平均正答率を1.7ポイント下回った。</p> <p>調 2学年は、「活用」が全国平均正答率を6.8ポイント上回ったのに対して「基礎」が全国平均正答率を2.9ポイント下回った。</p> <p>調 3学年では、一昨年の調査に比べて全体的に正答率が微増したが、「知識・理解」の観点で全国平均正答率を2.3ポイント下回った。</p> <p>調 3学年は、「活用」が全国平均正答率を3.4ポイント上回ったのに対して「基礎」が全国平均正答率を3.2ポイント下回った。</p> <p>学 3学年は、活動型の学習に積極的に取り組むようになり、思考をしながら基礎の定着を図る姿勢が少しずつ身についている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学年は、基礎的・基本的な用語の定着を一層意識させながら学習を進める必要がある。</li> <li>3学年は、既習事項の定着に不安がある生徒がみられるので、基礎的・基本的事項の復習が必要である。</li> <li>3学年は、「活用」の領域と比較して「基礎」の正答率を高める必要がある。また、2学年で学習を終えた地理的分野の一部、歴史的分野の一部の領域を復習する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学年は、基礎的・基本的な用語の定着を促すために、適宜小テストを行い授業内での確認を行っていく。</li> <li>3学年は、ワークブックを予習的に活用するとともに、定期考査ごとに活用し、語句をはじめとした基礎・基本を徹底して定着させていく。</li> <li>活動型授業の取り組みを一層充実させ、必要に応じて個別の言葉掛け・支援をさらに行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学年での活動型の授業（アクティブラーニング）は、歴史的分野におけるディベート、地理的分野における日本の諸地域の調査及び発表会で行う。</li> <li>3学年での活動型の授業（アクティブラーニング）は、公民的分野における家計のシミュレーションゲーム、企業作りと求人広告作り、選挙に関する模擬投票の活動等で行う。</li> </ul>	
数学	<p>調 新宿区学力定着度調査で、3学年は全国の平均正答率より5.2ポイント、2学年では10.1ポイント高かった。</p> <p>調 設問ごとに見ても全国平均を上回る問題がほとんどだったが、3学年は乗除の混在した計算や分数を含む多項式の計算などについて、2学年は関数における座標や関数の意味について定着が十分でない生徒がいた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を通して指導した内容の理解度は比較的高い。一方で、授業を行ってから期間が空いたものについて、定着が十分でないときがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業において、前年度までの関連する学習内容にからめながら指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>例えば関数であれば、中1で比例と反比例、中2で一次関数、中3で関数<math>y=ax^2</math>を学習する。一次関数と比例には共通する部分も多々あるため、一次関数の学習を行う際に、前年度に学習した比例について復習し、共通する部分についてはそのまま活かしていく。</li> <li>教員用タブレットPCを活用して、特に関数と図形の単元において、視覚的な理解をうながす。</li> </ul>	

理科	<p>調 2学年は全国の平均正答率を 2.8 ポイント上回っている。3学年は全国の平均正答率を 3.2 ポイント下回っている。</p> <p>調 2学年は、領域別正答率の「生命」で全国の正答率を 6.9 ポイント上回っているが、「粒子」では 1.4 ポイント下回っている。</p> <p>調 2学年は、観点別正答率の「観察・実験の技能」だけが全国平均を下回っており、その値も 9.2 ポイントと大きい。</p> <p>調 3学年は、領域別正答率の「地球」では 0.1 ポイント上回っているものの、「粒子」「生命」では全国平均を下回った。</p> <p>調 3学年は、観点別正答率の 4 観点すべてで全国平均を下回っている。</p>	<p>・2学年は、「観察・実験の技能」の力を補充が必要である。</p> <p>・3学年は、既習事項の定着に不安がある生徒が多くみられるので、基礎的基本的事項の復習が必要である。</p>	<p>・2年生は、観察・実験を行ってはいるので、実験手順や意味を今一度深く掘り下げ授業を展開していくとともに実験用の筆記テストや実技テストを取り入れていく。</p> <p>・3学年は、基礎・基本の定着を促すために、単元ごとに復習に取り組むと同時に、定期的に細かく小テスト等を行っていく。</p>	<p>・2年生についてはコロナウイルス感染症対策を徹底した上で実験器具に触れる機会を保っていくと共に、より個別実験を取り入れていく。</p>	
英語	<p>調 2学年は、新宿区学力定着度調査結果から、全国平均正答率よりも 16.7 ポイント高かった。すべての観点において全国を大きく上回る結果となったが、特に「表現の能力」においては、19.5 ポイント高かった。これまで授業でコミュニケーション活動に重点を置いてきた成果と言える。</p> <p>調 3学年は、新宿区学力定着度調査結果から、全国平均正答率より 1.2 ポイント高かった。全ての観点で全国平均を 10.7 ポイントから 17.6 ポイント上回ったが、語形・語法の知識理解に関しては、全国平均を 3.4 ポイント上回るにとどまった。基本的なことが十分理解できていない層がいることも明確だ。</p> <p>学 全体的には、1年生の時に比べると、ペアワークなどにも意欲的に取り組めるようになってきた。提出物などの取り組みも改善されてきた。</p>	<p>・2学年は、すべての観点で全国平均を上回ったが、知識・理解の定着においては定着が十分でなかった。</p> <p>・3学年は、全ての観点で全国平均を上回ったが、語形・語法の知識理解の定着が十分ではなかった。授業中の「振り返りの時間」を意識的に取り、語形・語法の知識理解および基礎の定着を目指していきたい。また、ペアワークなどを多く取り入れ、生徒たちの力をさらに伸ばしたい。</p>	<p>・2学年は、特に単語と文法については、小テストを定期的に行い、過去に学習したものも含めて繰り返し反復学習させることで定着を図っていききたい。</p> <p>・3学年は、毎時間の授業の最初の活動（帯活動）を工夫し、前の授業の「振り返りの時間」を確保することで、語形・語法の知識・理解の活用定着を図る。また、昨年同様、ペアワークや1分間スキットなどコミュニケーション活動を通して、即興で対応できる力を身につけさせる。そして、授業の終わりにも、その日のポイントを確認するようにする。また、それでも定着しない生徒に対しては、個別指導の機会を設ける。</p>	<p>・2学年は、ペアワークや1分間スキットなどコミュニケーション活動を通して、即興で対応できる力を身に付けさせ、授業の終わりには、授業のポイントを確認するようにする。それでも定着しない生徒に対しては、放課後に個別指導の機会を設ける。また、単語と文法については、小テストを定期的に行い、過去に学習したものも含めて繰り返し反復学習させることで定着を図っていききたい。</p> <p>・3学年は、毎時間の授業の最初の活動（帯活動）を工夫し、前の授業の「振り返りの時間」を確保することで、語形・語法の知識・理解の活用定着を図る。また、昨年同様、ペアワークや1分間スキットなどコミュニケーション活動を通して、即興で対応できる力を身に付けさせる。そして、授業の終わりにも、その日のポイントを確認するようにする。また、それでも定着しない生徒に対しては、個別指導の機会を設ける。</p>	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況